

# 外国語コミュニケーション

《2単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

谷川 守

## 授業の概要

保育現場でよく使う単語や語句を豊富に使い、より現場に即した対話練習や、園児や保護者への英語での対応演習を各週のトピックにあわせて行います。また保育現場で役立つ、英語を使った遊びなども授業の中に織り交ぜて実施していきます。

## 到達目標

保育現場で役立つ英会話を保育英検2級程度の能力まで高めていきます。

## 事前事後学習

学習予定の範囲の単語などをあらかじめ調べておく。出題されている設問の解答準備をしておく。授業後は学習したポイントを繰り返し復習し確認テストなどに備える。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	前期
1	保育の英会話への第一歩・自己紹介・実習準備	16	前半の確認テスト
2	リーディングとリスニング・英語の手遊び唄	17	一年の行事
3	実習時に使える表現	18	形の表現
4	お昼寝の時間に使う表現	19	数字・数え唄
5	マザーグースについて	20	誕生会での表現
6	園の周辺	21	縄跳び歌
7	園児との会話	22	子供の遊び
8	公園へ行く・なぞなぞ	23	赤ちゃんのケア
9	水遊び	24	子守唄
10	遊戯唄	25	歯磨きに関する表現
11	簡単な調理	26	妖精の話
12	赤ちゃんとの遊び唄	27	魔女のお話
13	読み聞かせの表現	28	クリスマスに関する表現
14	動物の鳴き声	29	後半のまとめと復習
15	前半のまとめと復習	30	後半の確認テスト

## 成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、各確認テスト(20%)、学習態度(10%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
[Children's Garden]赤松直子著、成美堂	「ことばを歌え！子どもたち」 榊原 陽著 筑摩書房
関連のある授業科目	資格等
海外研修	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 体育実技

《1単位(実技)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

村上清英

## 授業の概要

学生同士や教員と学生間でコミュニケーションをはかりながら、様々な運動・スポーツ活動の面白さを探り、追求することを通して、安全で道理にかなう運動実践力を身につけることを目指す。

## 到達目標

- ①スポーツ教材に興味を持ち、意欲的に取り組むことができる。
- ②スポーツ教材の基本動作、スキル、戦術をゲームの中で実践できる。
- ③スポーツ教材のルールおよび審判法を理解し、ゲーム運営ができる。
- ④スポーツ教材の用器具の使用法および管理法を理解し、実践できる。

## 事前事後学習

授業中に出される課題(実技テスト、レポート等)を出す。課題をクリアできるように工夫すること。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	身体を知る①:形態測定, 体力測定	1	
2	身体を知る②:体力測定, ソフトバレーボール	2	
3	ソフトバレーボール	3	
4	バードゴルフ①	4	
5	バードゴルフ②	5	
6	バレーボール①	6	
7	バレーボール②	7	
8	卓球①シングルス, 技術練習	8	
9	卓球②シングルス, ゲーム	9	
10	卓球③ダブルス, ゲーム	10	
11	バドミントン①	11	
12	バドミントン②	12	
13	バドミントン③	13	
14	身体を知る③:形態測定, 体力測定	14	
15	身体を知る④:体力測定	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、講義内課題(30%)、レポート(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
特になし(必要に応じて資料を配布します)	「最新スポーツ百科」大修館書店
関連のある授業科目	資格等
体育講義	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 体育講義

《1単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業必修》

担当者

村上清英

授業の概要

健康問題と生活環境の関係、健康維持・増進の方法、動作の巧みさについて学び、より豊かに健康的な生活をするための知識と実践力を身につける。

到達目標

- ①現代社会における運動・スポーツ実践の重要性とその意義を述べるができる。
- ②ライフスタイルに応じた生涯スポーツの実践に関心を持つようになる。

事前事後学習

毎授業の前後に、必ず予習復習をすること。レポート提出あり。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要、受講上の心得など
2		2	ライフスタイルと健康について
3		3	運動習慣と生活習慣病について
4		4	肥満のメカニズムについて
5		5	肥満の改善について
6		6	力やパワーについて
7		7	筋力と筋パワーを高める方法について
8		8	持久力を高める方法について
9		9	運動と骨の関係について
10		10	加齢による身体機能の変化と運動の関係
11		11	睡眠問題について
12		12	ストレスと運動について
13		13	動作の巧みさについて
14		14	子どもの身体活動不足、座位中心生活による影響
15		15	栄養とスポーツについて

## 成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、レポート(30%)、学習態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
特になし(必要に応じて資料を配布します)	「これからの健康とスポーツの科学」 安部孝・琉子友男編 講談社サイエンティフィック
関連のある授業科目	資格等
体育実技	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 基礎音楽

《4単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業必修》

担当者

《基礎音楽全般》田邊裕子  
《ピアノ》赤峯美津子・松岡美羽・三浦栄子・宮部明子・山田倫子

授業の概要

「保育表現技術」における「基礎音楽」の授業は、子どもの遊びや保育環境を豊かにするために必要な基礎音楽表現に関する知識や技術を習得することを目標とする。  
また、感性豊かな保育者を育成するために、さまざまな音楽に興味関心を持ち主体的に取り組む学びの姿勢が求められる。子どもの発達や保育の環境・内容について理解しながら、豊かな感性や創造性を養うための音楽表現の実践とその展開の方法を学ぶ。音楽表現に必要な基礎的知識や技術を理解し習得しやすいように、小人数編成の演習形式やピアノ個人レッスンを展開する。

到達目標

- ①子どもの歌や、ピアノ伴奏、弾き歌いなど基礎的な音楽表現技術を理解し習得する。
- ②歌やピアノ実技などの実践・活動に繋げる音楽表現の知識を習得し、読譜力を高める。
- ③ハンドベルやヴォイス・アンサンブルなどの演奏体験により音楽の楽しさを味わう。

事前事後学習

週毎に示している課題を目標とし、ピアノの練習等を毎日積み重ねることが基本である。また、練習方法を随時工夫して人前での発表や実践の準備に取り組む。  
毎回の授業の復習をし、目標課題の達成に努力を怠らないこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	前期オリエンテーション	31	後期オリエンテーション
2	ピアノ奏法および楽譜の理解(メロディ)	32	子どもの歌とオリジナル伴奏法1
3	子どもの歌と簡易伴奏法1	33	ピアノ奏法および楽譜の理解(装飾音)
4	ピアノ奏法および楽譜の理解(三和音)	34	子どもの歌とオリジナル伴奏法2
5	子どもの歌と簡易伴奏法2	35	ピアノ奏法および楽譜の理解(二長調)
6	ピアノ奏法および楽譜の理解(リズムと拍子)	36	子どもの歌とオリジナル伴奏法3
7	子どもの歌と簡易伴奏法3	37	ピアノ奏法および楽譜の理解(イ短調)
8	ピアノ奏法および楽譜の理解(音符と休符)	38	子どもの歌とオリジナル伴奏法4
9	子どもの歌と簡易伴奏法4	39	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ短調)
10	ピアノ奏法および楽譜の理解(ハ長調)	40	子どもの歌とオリジナル伴奏法5
11	子どもの歌と簡易伴奏法5	41	ピアノ奏法および楽譜の理解(その他の調)
12	ピアノ奏法および楽譜の理解(カデンツ)	42	子どもの歌とオリジナル伴奏法6
13	子どもの歌と簡易伴奏法6	43	ピアノ奏法および楽譜の理解(マーチ)
14	ピアノ奏法および楽譜の理解(ト長調)	44	子どもの歌とオリジナル伴奏法7
15	子どもの歌と簡易伴奏法7	45	ピアノ奏法および楽譜の理解(独奏曲)
16	ピアノ奏法および楽譜の理解(音階と和音)	46	子どもの歌とオリジナル伴奏法8
17	子どもの歌と簡易伴奏法8	47	ピアノ奏法および楽譜の理解(確認と小テスト)
18	ピアノ奏法および楽譜の理解(ヘ長調)	48	子どもの歌とオリジナル伴奏法9
19	子どもの歌と簡易伴奏法9	49	ヴォイス・アンサンブル1
20	ピアノ奏法および楽譜の理解(記号・楽語)	50	子どもの歌とオリジナル伴奏法10
21	子どもの歌と簡易伴奏法10	51	ヴォイス・アンサンブル2
22	ピアノ奏法および楽譜の理解(奏法)	52	子どもの歌とオリジナル伴奏法11
23	ピアノ弾き歌い課題発表の選曲と奏法1	53	ヴォイス・アンサンブル3
24	ハンドベルの奏法とアンサンブル1	54	後期ピアノ課題の選曲と奏法1
25	ピアノ弾き歌い課題の発表のための工夫と奏法2	55	器楽アンサンブル1
26	ハンドベルの奏法とアンサンブル2	56	後期ピアノ課題の選曲と奏法2
27	ピアノ弾き歌い課題の発表のための工夫と奏法3	57	器楽アンサンブル2
28	ハンドベルの奏法とアンサンブル3	58	後期ピアノ課題の選曲と奏法3
29	ピアノ弾き歌い課題発表	59	後期ピアノ課題の発表
30	前期のまとめと振り返り	60	後期のまとめと振り返り

## 成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、課題発表(40%)、小テスト(20%)により総合的に評価する。

テキスト	参考文献・推薦図書
「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 樞歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 「幼児のための音楽教育」神原雅之・鈴木恵津子編著 教育芸術社 その他、随時資料、楽譜を配布	「保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト」編著：全国大学音楽教育学会九州地区学会、「おんがくのしくみ-歌って動いてつくってわかる音楽理論-」著者：今村恭子ほか その他適宜、授業中に紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容(生活と表現Ⅰ)、教育実習、保育実習など	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 造形

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業必修》

担当者

森本 直樹

## 授業の概要

平面造形、立体造形の制作を通して、造形の基本的知識と技術を学び、美的感覚の訓練を目指す。同時に創造力を高め、感性を磨き、人間性を豊かにすることを大切にする。造形の授業は、五感を大切にしたい実技を通して学ぶことを心がける。

## 到達目標

- ・幼児造形の基礎的知識を理解する。
- ・平面表現による造形知識と表現方法および技術を習得する。
- ・立体表現による造形知識と表現方法および技術を習得する。

## 事前事後学習

- ・材料・用具の事前準備が必要である。
- ・作品提出に遅れたり欠席をした場合は、提出期限を守る。
- ・授業後はワークシートを整理し、理解を深める。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	スケッチの基礎①:鉛筆によるスケッチ画	16	造形技法①:オリジナル絵の具による絵画表現
2	スケッチの基礎②:コラージュ(貼り絵)	17	造形技法②:版をいかした表現(紙版画)
3	色彩の基礎①:12色相環の制作	18	造形技法③:版をいかした表現(紙版画)
4	色彩の基礎②:12色相環の制作	19	造形技法④:版をいかした表現(ローラー版画)
5	平面技法①:デカルコマニー/フロッターージュ	20	造形技法⑤:版をいかした表現(ローラー版画)
6	平面技法②:スクラッチ/ウオッシング	21	造形技法⑥:版をいかした表現(スチレン版画)
7	平面技法③:スパッタリング/ドリッピング	22	造形技法⑦:版をいかした表現(スチレン版画)
8	平面技法④:技法(①～③)を活かした絵画制作	23	立体造形①:オリジナル粘土による表現(共同制作)
9	平面技法⑤:技法(①～③)を活かした絵画制作	24	立体造形②:粘土による表現
10	平面技法⑥:ステンシル/スタンピング	25	立体造形③:粘土による表現
11	平面技法⑦:マーブリング/折り染め	26	立体造形④:粘土による表現
12	平面技法⑧:フィンガーペインティング	27	立体造形⑤:紙工作による表現
13	平面技法⑨:技法(⑥～⑧)を活かした絵画制作	28	立体造形⑥:紙工作による表現
14	平面技法⑩:技法(⑥～⑧)を活かした絵画制作	29	造形技法:(まとめ)
15	まとめ	30	小テスト:略画実技

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小テスト(10%)、作品(70%)	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
特になし。必要に応じて資料を配布する。	『楽しい造形表現』(子ども造形表現研究会, 圭文社)
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
保育内容(生活と表現Ⅱ)、保育実習指導など	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 保育者論

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／幼免・保育士必修》

担当者

可児みづき

授業の概要

直接的に幼児と関わる保育者の役割、また専門家としての倫理について提示する。また、保育者として求められる専門性が高度化するなかで、それら背景にある社会的期待や課題について取り上げ、検討する。保育者の制度的位置づけを確認し、保育者の専門職的成長はどのように起きうるのか、自己課題含め、検討し考察する。

到達目標

- ①保育者の役割と倫理を理解する。
- ②保育者の専門性について理解する。
- ③保育者間、また保護者や地域社会との協働・連携について理解する。
- ③保育者の制度的位置づけについて理解する。
- ③保育者の専門職的成長を理解し、自己課題を把握する。

事前事後学習

講義前にテキストの指定箇所を熟読しておくこと。グループでの活動があるときには、事前・事後で活動に向けて準備・振り返りを行うこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	保育者の役割と倫理
3		3	保育者の専門性①子ども理解と養護・教育の一体
4		4	保育者の専門性②記録とふりかえり
5		5	保育者の専門性③子育て支援
6		6	保育と家族・地域の関係①モンスターペアレント
7		7	保育と家族・地域の関係②地域社会での保育
8		8	保育と家族・地域の関係③'家族と子育て
9		9	保育と家族・地域の関係④現代における子育て
10		10	保育者の協働①地域・小学校との協働
11		11	保育者の協働②専門職間の協働
12		12	保育者の協働③保育者間の協働
13		13	保育者の制度的位置づけ—責務と資格・要件
14		14	保育者の成長—学び続ける保育者
15		15	保育者の実践—アトム共同保育所

## 成績評価基準及び方法

講義各回におけるコメントシートあるいは課題等の提出状況と内容(60%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
新保育士養成講座編纂委員会『保育者論』全国社会福祉協議会、2012年。	適宜、講義中に紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育原理、教育原理	幼稚園免許二種免許・保育士資格

# 保育の心理学 I

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／卒業必修》

担当者

山口昌澄

授業の概要

本講義では「ひとが育つ」ということを、発達心理学や教育心理学などの視点から紹介する。「社会性」「言語」「認知」「思考」「自己」などの発達について、基礎的理論から最新の研究まで、できるだけ平易に解説していく。また、それらを保育・教育実践へ生かす知見についても紹介する。

到達目標

- ・保育実践や子どもの発達に関わる心理学の基礎的知識を習得し、子どもに対する理解を深める。
- ・生涯発達の観点から自らの「育ち」をふり返り、人の育ちに対する気づきや理解度を高める。
- ・子どもが人との相互的関わりを通じて発達していくことを具体的に理解する。
- ・心理学知見と保育実践とを結びつける観点をもつ。

事前事後学習

下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(「発達」を学ぶ意味)	1	
2	愛着関係の形成と基本的信頼感の獲得	2	
3	表情理解と他者とのコミュニケーション	3	
4	子どもの言葉と社会性の発達	4	
5	子どもの知覚・認知機能の発達	5	
6	心の理論と感情の発達 ※小テスト	6	
7	遊びの発達と運動機能・社会性の発達	7	
8	子どもの思考における魔術的性格	8	
9	血液占いと性格	9	
10	パーソナリティ・テスト(TEG)の体験	10	
11	子どもの自我や感情の発達	11	
12	心身の生涯発達とその援助	12	
13	子ども観・発達観と保育実践上の評価 ※小テスト	13	
14	養育態度と心の発達との関係	14	
15	発達のつまづき	15	

## 成績評価基準及び方法

小テスト・リフレクションシート等学習態度(50%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「乳幼児のための心理学」 小林芳郎編著 保育出版社	「子どもを育む心理学」小林芳郎編著 保育出版社 「発達心理学」榎本博明編著 おうふう出版 「よくわかる青年心理学―第2版―」白井利明編 ミネルヴァ書房
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学Ⅱ、保育内容(生活と人間関係)	幼稚園免許二種免許・保育士資格・ピアヘルパー認定資格

# 保育の心理学Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

山口昌澄

授業の概要

発達を援助するために重要な発達アセスメント、それを保育の実践にどのように活かすのか、実際にどのような援助、支援が考えられるのか等について、発達の気になる子への対応も含めて考えていく。自己理解のワークとして心理テストをすることもある。

到達目標

- ・子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
- ・生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
- ・保育における発達援助について学ぶ。

事前事後学習

事前に授業に関連する資料を配布するので、授業前に読んでおく。授業後には授業にて配布したプリントを整理しまとめておく。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	発達と保育実践①:「育ち」の把握について
3		3	発達と保育実践②:個人差や発達過程に応じた保育
4		4	発達と保育実践③:身体感覚を伴う経験と環境との相互作用
5		5	発達と保育実践④:保育環境としての保育者
6		6	発達と保育実践⑤:子ども相互の関係形成 自己主張と自己抑制
7		7	発達と保育実践⑥:集団活動や望ましい行動形成
8		8	生活や遊びを通した子どもの学び
9		9	自己理解ワーク
10		10	発達援助①:基本的生活習慣と生きる力の基礎
11		11	発達援助②:発達の課題とその支援(ASD)
12		12	発達援助③:発達の課題とその支援(LD)
13		13	発達援助④:発達の課題とその支援(AD/HD)
14		14	発達援助⑤:現代社会における育ちと就学への支援
15		15	発達援助⑥:協働的関係に基づいた育ちへの支援

## 成績評価基準及び方法

提出物・発表など学習態度(50%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
特になし。資料を配布する。	「保育の心理学Ⅱ」 井戸ゆかり編著 萌文書林 「保育の心理学Ⅱ」 清水益治・無藤隆編著 北大路書房 他
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学Ⅰ, 保育内容(生活と人間関係)	保育士資格・ピアヘルパー認定資格



# 保育内容総論

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／幼児・保育士必修》

担当者

西島宣代

授業の概要

幼稚園教育要領や保育所保育指針の趣旨を理解し、保育の基本についての考え方を学習する。保育内容が乳幼児の「発達の側面」から5つの領域でしめされていることを理解する。保育の本質である遊びを通しての総合的指導を実現し、実践的指導力を養うためには保育内容はどうかを学びます。

到達目標

- ・領域別に学習する保育内容が実践の保育現場では統合して、実践されていることを理解する。
- ・保育の基本とされている”総合的な指導”が行えるようにする。

事前事後学習

毎授業前に「保育所保育指針」・「幼稚園教育要領」を熟読しておくこと。  
授業後は、ノートをまとめ、授業内容の理解に努めること。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	1年後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要説明
2		2	保育の基本と保育内容
3		3	保育内容の歴史の変遷:保育所保育指針の理解
4		4	保育内容の歴史の変遷:幼稚園教育要領の理解
5		5	保育内容と子ども理解
6		6	養護と教育の一体化に対する理解
7		7	環境を通して行う保育
8		8	遊びによる総合的な保育①:指導計画の理解
9		9	遊びによる総合的な保育②:指導案を考える
10		10	生活や発達の連続性に考慮した保育
11		11	家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育
12		12	保育の多様な展開①:乳児保育・長時間保育
13		13	保育の多様な展開②:特別支援
14		14	保育者の専門性:これからの課題
15		15	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、授業内提出物(30%)、小テスト(10%)、定期試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「幼稚園教育要領」 フレーベル館 「保育所保育指針」 フレーベル館 *随時資料配布	随時紹介する
関連のある授業科目	資格等
保育内容5領域科目	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容(生活と健康)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

村上清英

## 授業の概要

幼児の発達やあそび、運動能力、ライフスタイル等と健康との関わりについて学ぶ。

## 到達目標

- ①領域「健康」のねらいを説明することができる。
- ②乳幼児期の健康における家庭・地域・幼稚園・保育園の役割を述べることができる。
- ③乳幼児期の発育発達の特徴を説明することができる。
- ④乳幼児の事故の実態および安全教育の留意点を述べることができる。

## 事前事後学習

授業の前に、テキスト「健康」の当該箇所を読んでおくこと。レポート提出あり。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	領域「健康」(ねらいと内容)	2	
3	幼児期の健康な生活①	3	
4	幼児期の健康な生活②	4	
5	子どものからだの育ち	5	
6	子どものこころの育ち	6	
7	子どもの体格と運動能力	7	
8	子どもの遊びの発達	8	
9	子どもの生活スタイル	9	
10	子どもの安全管理	10	
11	子どもの安全教育	11	
12	応急処置	12	
13	乳幼児の保健	13	
14	体育的行事	14	
15	保育の計画と指導案	15	

## 成績評価基準及び方法

定期試験(60%)、レポート(30%)、学習態度(10%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「保育内容 健康」新版 民秋言・穂丸武臣編著 北大路書房	「保育所保育指針 幼稚園教育要領 解説とポイント」 ミネルヴァ書房
関連のある授業科目	資格等
保育内容5領域科目	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容(生活と人間関係)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

山口昌澄

## 授業の概要

子どもの健全な発達には、子どもたちを取り巻く他者(家族・保育者・友だち・地域社会等)との良好な関係づくりが不可欠である。その中で子どもは、愛他的行動、道徳性、社会性、自立心等を育み、自らの存在を認められている感覚や「自分らしさ」を発揮していく。  
本演習では、そうした子どもの育ちを見守り、保育者として適切な支援を行なう上で必要となる知見を紹介していきます。

## 到達目標

- ・幼稚園教育要領および保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいや内容等を理解する。
- ・子どもの良好な育ちへ寄与する、保育者としての心構えを習得する。
- ・子どもへの受容・共感的態度について、学びを深める。

## 事前事後学習

下記テキストの関連箇所および配布資料を授業回前後に読み、理解を深めながら取り組むこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	領域「人間関係」のねらいと内容
3		3	年齢による発達の特徴①(乳児期)
4		4	年齢による発達の特徴②(3歳児)
5		5	年齢による発達の特徴③(4・5歳児<前半>)
6		6	年齢による発達の特徴④(5歳児<後半>)
7		7	子どもの安心につながる保育者の関わり
8		8	子どもの社会性の発達①(自律心・葛藤)
9		9	子どもの社会性の発達②(道徳性・生きる力)
10		10	子どもの社会性の発達②(向社会的行動・思いやり)
11		11	保育者の連携体制について①
12		12	保育者の連携体制について②
13		13	子どもの認知様式の発達と遊び
14		14	特別な配慮を要する子どもたち
15		15	家庭・家族・地域に育まれる子どもたち 学習のまとめ

## 成績評価基準及び方法

グループ発表など学習態度(50%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「人間関係」小櫃智子・谷口明子編著 一藝社 ※随時レジュメ配布。	「子どもを育む心理学」小林芳郎編著 保育出版社 「カウンセリング心理学」榎本博明編著 株式会社おうふう 「発達のための臨床心理学」小林芳郎編著 保育出版社
関連のある授業科目	資格等
保育の心理学Ⅰ、保育の心理学Ⅱ、保育内容総論など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容(生活と環境)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

西島宣代

## 授業の概要

自然環境を仲立ちに子どもに接する学生が、自然の変化や不思議さに気づき、自然に対する感性を養い、子どもといかにそれを共有するかについて学びます。  
子どもが身近な環境と積極的にかかわり、好奇心・探求心を持ち、それらを生活に取り入れていくこととする力、豊かな感性を育てる保育内容について学びます。

## 到達目標

- ・領域「環境」のねらいと内容を理解する。
- ・自然環境に興味や関心を示すことでいるんなことに気づき、自然に対する豊かな感性を育てる。
- ・身近な環境と積極的にかかわることで、子どもといかにそれを共有していくかを理解する。

## 事前事後学習

事前では、身近な環境に気づき、興味や関心を示すこと。  
学習後は、学んだ内容を実際の生活の中に取り入れ豊かな感性を育てる。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:授業の概要説明
2		2	「環境」とは:人間の生活と環境
3		3	子どもを取り巻く環境の変化
4		4	子どもにとっての環境:子どもの生活と園の環境
5		5	乳幼児の発達と環境
6		6	「環境」の捉えかた:「ねらい」教育要領、保育指針
7		7	「環境」の捉えかた:「内容」教育要領
8		8	「環境」の捉えかた:「内容」保育指針
9		9	環境とかかわる力:(1)自然とふれあう
10		10	環境とかかわる力:(2)動植物とのかかわり
11		11	環境とかかわる力:(3)数量・図形・文字などに親しむ
12		12	環境とかかわる力:(4)物・メディア利用
13		13	環境とかかわる力:(5)園行事、社会行事
14		14	望ましい環境とは:子ども自ら、自主的、主体的に働きかけたくなるような環境
15		15	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小レポート(10%)、定期試験(70%)

### テキスト

柴崎正行編『保育内容の基礎と演習』わかば社

### 参考文献・推薦図書

随時紹介する

### 関連のある授業科目

保育内容5領域科目

### 資格等

幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容(生活と言葉)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／幼免必修》

担当者

岡山愛子

授業の概要

言葉を獲得する過程で最も重要な乳幼児期について認識を深め、言葉の発達について学ぶ。さらに、現代の社会状況が言葉の発達に与えている影響を理解した上で、保育現場における言葉の指導及び援助の方法について学ぶ。  
絵本の読み聞かせ(発表)も随時行う。

到達目標

・乳幼児期の言葉の発達について理解する。  
・ことばを育てる保育者の役割と援助について理解を深める。  
・ことばを育てる文化財について理解し、絵本の読み聞かせ等の基本的な実践方法を習得する。

事前事後学習

・毎授業の前に必ず、テキスト「事例で学ぶ保育内容 言葉」の当該箇所を読んでおくこと。  
・授業後には、ノートを整理し、資料などを復習しておくこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション :授業の学び方
2		2	領域「言葉」のねらいと内容
3		3	現代社会とことばをめぐる問題
4		4	乳幼児期の発達とことば (誕生～1歳未満のころ)
5		5	乳幼児期の発達とことば (1歳～2歳のころ)
6		6	乳幼児期のことばの発達 (3歳～6歳のころ)
7		7	乳幼児のことばの発達とおとなの存在
8		8	信頼関係から生み出されることば
9		9	自分の考えや思いを伝えることば
10		10	保育の中の文化財
11		11	書きことば(文字)が広がる世界
12		12	ごっこ遊びとことば
13		13	ことばを育てる保育者の役割と援助
14		14	こどもの特性に応じた配慮と支援
15		15	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、演習・発表(10%)、定期試験  
本授業における出席も評価の対象となる。

テキスト	参考文献・推薦図書
「事例で学ぶ保育内容 言葉」 無藤 隆監修・高濱裕子編者代表 萌文書林	子どもが育つ魔法の言葉 PHP研究所
関連のある授業科目	資格等
保育内容指導法、保育の心理学など	幼稚園教諭2種免許

# 保育内容(生活と表現Ⅰ)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

田邊裕子

## 授業の概要

感性と表現に関する領域「表現」は、子どもの豊かな感性を育て感じたことや考えたことを表現する意欲を養い創造性を豊かにする観点から示したものである。そこで、子どもたちの日々の生活や遊びの中から子ども一人ひとりの表現を読み取り、子どもの個性を尊重し、それぞれの成長・発達に合わせた表現活動ができる保育者をを目指す。  
授業では、音楽・身体表現を中心に、保育の総合的な展開をしていくために表現活動を展開する。また、創造的・即興的な表現活動を通して、豊かな感性や表現する力を養う。保育内容を理解し、幼児期における生活と遊びの中で親しまれている教材を中心に、展開方法や指導方法を学ぶ。

## 到達目標

- ・子どもの生活や遊びを通して音楽表現や身体表現などを理解する。
- ・子ども一人ひとりの表現力や創造力を伸ばすための工夫や指導の方法を習得する。
- ・グループ活動を通し、学生相互の学び合いにより豊かな感性や表現力を高める。

## 事前事後学習

授業に関連した子どもの表現活動の事例を集め、発表や実践の準備すること。  
事後の学習としては、個人およびグループ活動による発表や作品に対する評価・反省などを、保育者の専門技術に今後生かせるよう整理をして記録しておくこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	乳幼児の音楽的成長と発達	2	
3	乳幼児の生活と遊び(表現遊び)	3	
4	感性と表現の教育(表現活動の実践)	4	
5	乳幼児と楽器(楽器の特徴と奏法)	5	
6	幼児の音楽教育者(創作的総合音楽づくり実践)	6	
7	わらべうたと歌あそび	7	
8	教材とその指導(春のうた)	8	
9	教材とその指導(夏のうた)	9	
10	教材とその指導(ディズニー、アニメソング)	10	
11	教材とその指導(生活・行事のうた)	11	
12	教材とその指導(秋、冬のうた)	12	
13	教材とその指導(愛唱歌)	13	
14	日本の子どもの歌の歴史	14	
15	まとめと振り返り	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度(40%)、実技発表(30%)、課題作品およびレポート(30%)	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育 神原雅之・鈴木恵津子 監修・編著 (株)教育芸術社 その他、随時資料、楽譜を配布	「保育者のためのピアノレッスン」清原貴子編著 権歌書房 「日本の子どもの歌」全国大学音楽教育学会編著 音楽之友社 その他、適宜、授業中に紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
基礎音楽、保育内容指導法、教育実習、保育実習など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容(生活と表現Ⅱ)

《1単位(演習)／幼児保育学科1年前期／卒業・保育士・幼免必修》

担当者

森本 直樹

授業の概要

造形活動を通して、創造する喜び、表現する楽しさを体験し、人間形成に重要な役割をなす幼児の造形活動について理解を深める。また、幼児一人ひとりの個性を尊重し、楽しく造形表現を行っていくには、どのような援助をすればよいのかについて学ぶ。

到達目標

- ・幼児の「表現」について学び理解する。
- ・造形表現における基礎的な保育技能を習得する
- ・造形材料・素材のもつ性質や特徴・技法などを理解する

事前事後学習

- ・指定用具を忘れないこと。
- ・表現活動に関する題材・資料・材料の収集をすること。
- ・提出に遅れたり欠席をした場合は、提出期限を守ること。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	イントロダクション:授業内容の概要説明、領域「表現」の目標とねらいについて	1	
2	幼児の造形表現への理解1:技法遊びと造形(イメージトレーニング、発想を育てる)	2	
3	幼児の造形表現への理解2:技法遊びと造形(イメージトレーニング、発想を育てる)	3	
4	幼児の造形表現への理解:描画表現の発達段階	4	
5	造形表現の基礎1:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	5	
6	造形表現の基礎2:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	6	
7	造形表現の基礎3:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	7	
8	造形表現の基礎4:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	8	
9	造形表現の基礎5:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	9	
10	造形表現の基礎6:材料や用具を工夫し、特性を活かしたペーパーワーク	10	
11	造形表現の応用1:環境構成づくりの体験(共同制作)	11	
12	造形表現の応用2:環境構成づくりの体験(共同制作)	12	
13	造形表現の応用3:環境構成づくりの体験(共同制作)	13	
14	造形表現の応用4:環境構成づくりの体験(共同制作)	14	
15	まとめ:作品発表	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、作品(70%)	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
特になし。必要に応じて資料等を配布する。	「保育の中の造形表現」 林健造・岡田敬吾共著 サクラクレパス出版部
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
造形、保育実習指導法、保育内容(全教科)など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格

# 保育内容指導法

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／幼免必修》

担当者

笠野恵子

## 授業の概要

保育内容を踏まえた指導に関する理解と子どもの発達課題に応じた遊びの効用を学習し、指導法について具体的・実践的に学ぶ。課題制作やレポート作成にも取り組みながら、保育現場での多様な展開を理解する。

## 到達目標

- ・子どもについての理解を深め、保育現場での基本的な指導法を習得する。
- ・保育計画における立案方法などの基礎的要素を理解する。
- ・園行事に対する事例や内容を研究し、実践を通して保育技術を身につける。

## 事前事後学習

毎授業の資料を振り返り、講義や演習の内容と合わせて整理すること。  
教材や指導案の作成においては授業時間内に成果を上げるため、授業に臨む前に資料収集や教材研究などの準備をしておくこと。予定の段階まで進まない場合は授業時間外での取り組みを行うこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:授業概要の説明・保育現場での指導法	16	ストーリーテリングの特性
2	子どもにとっての遊びの意義	17	ストーリーテリングの実践
3	子ども理解と保育指導法の意義	18	保育に役立つ教材作成3:手袋人形作成①
4	子どもの発達と遊びの効用1(言葉)絵本・紙芝居	19	保育に役立つ教材作成4:手袋人形作成②
5	子どもの発達と遊びの効用2(造形)折り紙	20	手袋人形における作品の発表と振り返り
6	現代における子どもの実情(新聞記事まとめ)	21	保育内容の指導(1): 指導案作成の意義
7	3歳以上児における実習記録の意義	22	保育内容の指導(2): 指導案の記入方法
8	3歳未満児における実習記録の意義	23	保育内容の指導(3): 部分実習のための教材研究および指導案作成①
9	保育に役立つ教材作成1:ペープサート①	24	保育内容の指導(4): 部分実習のための教材研究および指導案作成②
10	保育に役立つ教材作成2:ペープサート②	25	園行事における指導案作成の意義
11	教材発表と振り返り	26	園行事における指導案作成の実際
12	子どもの発達と遊びの効用3(造形)新聞紙遊び	27	園行事における指導案作成の発表
13	保育形態の特性	28	現代の家族または子ども事例の検討とグループワーク
14	保育の目標と計画	29	現代の家族または子ども事例の検討とグループ発表
15	パネルシアターの理解と作成方法	30	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、課題・発表(30%)、試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「実習の記録と指導案」 田中亨胤監修 ひかりのくに 「幼保連携型認定こども園・保育要領解説」 フレーベル館 随時資料を配布する。	随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育内容五領域、保育内容総論、保育実習指導 I など	幼稚園教諭二種免許・保育士資格



# 保育原理

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士必修》

担当者

可児みづき

## 授業の概要

本講義では高度な専門性が求められる現代の保育士や幼稚園教諭について、必要とされる資質・能力や道徳的側面、またその職業的意義等について理解することを目的とし、保育者(教師・保育士等)に求められる今日的課題について考える力を養う。具其他的には以下の項目を扱う。

①保育者の役割と倫理 ②保育者の制度的位置づけ ③保育者の専門性  
④地域社会との協働 ⑤保育者のキャリア形成

## 到達目標

①保育者の制度的な位置づけについて理解する。  
②保育者の専門性について理解する。  
③保護者や地域社会との協働・連携について理解する。

## 事前事後学習

講義前にテキストの指定箇所を熟読しておくこと。  
講義終了後に資料・ノートを整理しておくこと。ミニレポートに替えて提出を求める場合がある。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	よい保育者とは？
3		3	保育者の役割
4		4	保育者としての倫理観
5		5	保育士の制度的位置づけ
6		6	保育士の専門性① 養護と教育
7		7	保育士の専門性② 保育士に求められる資質と能力
8		8	保育士の専門性③ 保育士にとっての知識と技術
9		9	保育士の専門性④ 保育の省察・自己評価
10		10	保育者の協働① 保護者の支援
11		11	保育者の協働② 専門職間の協働
12		12	保育者の協働③ 地域・小学校との協働
13		13	保育者の協働④ 保育者間の協働
14		14	学び続ける保育者
15		15	保育者のキャリア形成とライフプラン

## 成績評価基準及び方法

①ミニレポート等(50%)、②試験(50%)により総合的に評価する。	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
新保育士養成講座編纂委員会『保育者論』全国社会福祉協議会、2012年。	適宜、講義中に紹介する。
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
保育原理、教育原理	保育士資格

# 児童家庭福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年後期／卒業・保育士必修》

担当者

牛島豊広

授業の概要

1. 地域を基盤とした児童の暮らしのあり方について理解し、その抱える課題を学ぶ。
2. 児童を取り巻く環境を理解し、家族支援を視野にいれた援助の方法について学ぶ。
3. 保育者が支援から児童家庭福祉の現状を捉え、支援の方策を学ぶ。

到達目標

1. 子どもの権利擁護について理解する。
2. 子どもを取り巻く社会環境を理解する。
3. 児童及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、社会需要について理解する。

事前事後学習

子どもの環境を取り巻く社会福祉制度や福祉サービスについて事前学習し、学ぶようにしてほしい。講義毎に必ずプリントを配布し、レジュメに沿って説明をしていくので内容を理解し事後学習をすること。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション:学び方
2		2	親と子の「幸福」と子ども家庭福祉
3		3	子ども家庭福祉の成立と展開
4		4	家庭における子育てと子ども家庭福祉
5		5	子ども・子育て支援制度の理解と今後の課題
6		6	子ども虐待の現状と課題及び今後の取り組み
7		7	子ども家庭福祉専門職の動向
8		8	子ども家庭福祉専門職の課題
9		9	障害児福祉理の理念と実践
10		10	ひとり親家庭の支援の現状
11		11	一人親家庭の支援の課題
12		12	保護者・家庭支援のカウンセリング
13		13	子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク①
14		14	子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク②
15		15	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(10%)、課題(30%)、定期テスト(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
新版「子ども家庭福祉のフロンティア」 晃洋書房 随時プリント配布	保育用語辞典〔第8版〕 ミネルヴァ書房
関連のある授業科目	資格等
社会福祉、社会的養護内容	保育士資格

# 社会福祉

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／保育士必修》

担当者

西島宣代

## 授業の概要

社会福祉は理念を正しく理解し、人間の尊厳を守り、豊かな社会生活を送ることの大切さを学ぶために、社会福祉の現状を理解し、その対象者について学びを深める。また、社会福祉実践を通してこれからの社会福祉のあり方について総合的に学ぶ。保育者を目指すものとして必要な社会福祉の基礎的な概要を学ぶ。

## 到達目標

- 1、現代社会における社会福祉の意義や歴史の変遷について理解する。
- 2、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
- 3、社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4、社会福祉における相談援助や利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
- 5、社会福祉の動向と課題について理解する。

## 事前事後学習

事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。  
事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション:学び方	1	
2	社会福祉の理念と概念	2	
3	社会福祉の歴史の変遷	3	
4	社会福祉と児童家庭福祉 ～社会福祉の一分野としての児童家庭福祉～	4	
5	社会福祉と児童家庭福祉 ～児童の人権と社会福祉～	5	
6	社会福祉の制度と実施体系～社会福祉の制度と法体系～	6	
7	社会福祉の制度と実施体系～社会福祉の行財政と実施機関～	7	
8	社会福祉の制度と実施体系～社会福祉施設について～	8	
9	社会福祉の制度と実施体系～社会福祉専門職と実施者～	9	
10	社会福祉の制度と実施体系～社会保障制度の概要①～	10	
11	社会福祉の制度と実施体系～社会保障制度の概要②～	11	
12	社会福祉における相談援助について	12	
13	社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて	13	
14	社会福祉の動向と今後の課題	14	
15	まとめ	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、確認テスト(10%) 定期テスト(70%)	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
「図表で読み解く社会福祉入門」(ミネルヴァ書房)	「五訂 保育士を目指す人の社会福祉」(みらい)
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
児童家庭福祉	保育士資格

# 社会的養護

《2単位(講義)／幼児保育学科1年前期／保育士必修》

担当者

桐原 誠

## 授業の概要

社会的養護とは、家庭において何らかの事情があり、適切な養育が受けることのできない子どもたち(要保護児童)を国や社会が責任を持って養育・保護する制度である。本講義では、社会的養護の意義と歴史の変遷を学び、そうした家庭を支える施設職員、里親、行政の現状に触れていながら今日における社会的養護の課題について具体的に考察していく。

## 到達目標

- ・社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する
- ・施設養護の意味と施設の機能・役割を理解する
- ・社会的養護の制度や実施体系等を理解する
- ・児童の人権擁護や自立支援について理解する

## 事前事後学習

- ・講義前の予習と講義後の復習がとても大切になるので、教科書をしっかり読みましょう
- ・黒板に板書したものは、必ずノートに書き留めましょう
- ・疑問に感じたことやわからないことがあれば、いつでも質問して下さい

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション	1	
2	社会的養護の現状	2	
3	社会的養護の歴史の変遷と今日的課題	3	
4	社会的養護の制度と実施体系について	4	
5	児童養護の理念と施設養護の原理・原則	5	
6	子どもの権利擁護について	6	
7	要養護児童の発達課題と養護の在り方	7	
8	施設養護における理論と実践	8	
9	児童養護施設の領域と概要	9	
10	施設と関係機関の連携	10	
11	施設職員の専門性と倫理	11	
12	施設職員における専門性の課題	12	
13	里親とはなにか	13	
14	社会的養護の課題と今後の展望	14	
15	総括	15	

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
新選・児童の社会的養護原理 (株みらい「教育と教師のフロンティア」 晃洋書房)	随時紹介
関連のある授業科目	資格等
児童家庭福祉 社会的養護内容	保育士資格

# 子どもの保健 I

《4単位(講義)／幼児保育学科1年通年／卒業・保育士必修》

担当者

宮村信子

## 授業の概要

子どもは絶えず成長し、健康な体と健全な心を育むためには、健康が保持・増進されなければならない。そのために、子どもの成長・発達、栄養・生活への適応や、養護・社会の制度や施策、また病気や事故などの特徴・対応・予防について学び保育士として必要な知識を身につける。

## 到達目標

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体発育や生理機能及び、運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。
- 3.子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。
- 4.子どもの精神保健とその課題等について理解する。
- 5.保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。
- 6.施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制について理解する。

## 事前事後学習

毎授業の前に『』の当該箇所を読んでおくこと。  
授業後にはノートを整理しておくこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	O・R 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的	16	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症とその予防
2	健康の概念と健康指標 地域における保健活動と児童虐待防止	17	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
3	子どもの発育発達と保健 生物としてのヒトの成り立ち	18	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
4	身体発育と保健	19	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
5	生理機能の発達と保健	20	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 感染症
6	生理機能の発達と保健	21	子どもの疾病の予防と適切な対応 発熱・嘔吐・下痢
7	生理機能の発達と保健	22	子どもの疾病の予防と適切な対応 頭痛・腹痛・咳・けいれん 予防接種
8	運動、精神機能の発達保健	23	小児期からの生活習慣の予防の重要性 生活習慣病とは
9	運動、精神機能の発達保健	24	子どもの生活環境と精神保健 子どもの生活と環境
10	子どもの健康状態の把握と主な病気の特徴	25	子どもの生活環境と精神保健 子どもの心身症と精神疾患
11	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 免疫とアレルギー疾患	26	子どもの心の健康とその課題 発達障害・自閉症・アスペルガー症候群
12	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 免疫とアレルギー疾患	27	保育環境と衛生・安全管理 保育環境整備と保健・食中毒への対応
13	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	28	保育環境と衛生・安全管理 事故防止と安全対策・危機管理
14	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	29	健康及び安全の実施体制 職員間の連携の組織的取組・母子保健対策と保健
15	子どもの疾病の特徴、その予防と適切な対応 慢性疾患	30	健康及び安全の実施体制 家庭、専門機関、地域との連携

## 成績評価基準及び方法

定期試験(70%)、学習態度(30%)	
<b>テキスト</b>	<b>参考文献・推薦図書</b>
「図表で学ぶ子どもの保健 I」 加藤忠明・岩田力編著 建帛社	「からだのしくみ全書」 高橋健一 中央文化社
<b>関連のある授業科目</b>	<b>資格等</b>
子どもの保健 II・子どもの食と栄養・乳児保育	保育士資格

# 子どもの保健Ⅱ

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

宮村信子

## 授業の概要

保育現場において、子どもたちの健やかな成長発達を促進し、健康を守るために、健康な子どもの観察、身体発育の測定方法と評価、精神・運動機能の発達の観察・評価や、保育・養護、さらに、事故時の応急処置、心肺蘇生法、包帯の巻き方等についても実践できる知識・技術を習熟する。

## 到達目標

- 1、子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。
- 2、子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
- 3、子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。
- 4、救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。
- 5、現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。

## 事前事後学習

必ずテキスト『』の当該箇所を読んでおくこと。  
授業後にはノートの整理をしておくこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	O・R 保健計画の作成と活用
2		2	保健活動の記録と自己評価 健康状態の観察
3		3	保健活動の記録と自己評価 身体発育の測定と方法と評価
4		4	子どもの保健に係る個別対応と 子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
5		5	保健における養護と教育の一体性 子どもの健康増進と保育環境 ・子どもの生活習慣と心身の健康
6		6	子どもの発達援助と保健活動 乳児の抱き方、育児用品の使い方
7		7	子どもの発達援助と保健活動 食事の与え方・排泄のさせかた
8		8	子どもの発達援助と保健活動・身体の清潔 手洗いの演習
9		9	体調不良が発生した場合の対応・感染症の予防と対策 乳児、障害のある個別的配慮を要する子どもへの対応
10		10	事故防止及び健康安全管理に関する組織的取組 保育における看護と応急処置
11		11	救急処置及び救急蘇生法の習得 人工呼吸 ・心臓マッサージ
12		12	保育における看護と応急処置
13		13	保育における看護と応急処置
14		14	保育における看護と応急処置 災害への備えと危機管理
15		15	子どもの養育環境と心の健康問題 心とからだの健康づくりと地域保健活動

## 成績評価基準及び方法

定期試験(70%) 学習態度(30%)	
テキスト	参考文献・推薦図書
「子どもの保健Ⅱ」 白野幸子 医歯薬出版KK	
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅰ・乳児保育・子どもの食と栄養	保育士資格

# 乳児保育

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

賀久久美子

授業の概要

受胎から誕生までのメカニズムを絵本を通して学ぶ。  
尊い生命を通してその成長と援助に必要な知識を学び、人の愛情ある行動の重要性を確認する。乳児期の基本的な生活習慣が身に付き生きる力の基盤が出来上がると云われる。  
“育てること”は生命を守ること。人の生涯の基礎づくりの時期に携わる者として心して学ぶ。育てることは素晴らしい。

到達目標

知識を習得し感性豊かな保育者になることを目指す。  
・成長、発達に応じた特質や援助のあり方を習得する。  
・乳児保育の実践に対応できる知識を得て心と体力を養う。  
・自らの基本的な生活習慣を見直す。

事前事後学習

① テキストを事前によく読んだり、学ぶべき内容を把握する。  
② 講義内容をまとめ、興味感心を深め楽しむ工夫をする。  
③ 学んだことを、実習など現場で活用表現できるようにする。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション(ベッドでねんね)	16	オリエンテーション(アンヨが出来た)
2	乳児が生きるということ	17	15ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助
3	新生児の特徴	18	離乳食と食器
4	新しい生命との出会い	19	園児と遊ぼう(子どもたちとの交流)
5	赤ちゃんの成長の秘密	20	18ヶ月児の育ち(アンヨ大好き、登るのが大好き)
6	3・4ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	21	安全と環境
7	5ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	22	24ヶ月児の育ち(走るのと、両足跳び大好き)
8	6・7ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	23	30ヶ月児の育ち(スリルに挑戦、バランス抜群)
9	実習、調乳と授乳	24	未満児の作品展(制作)
10	8ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	25	保育指針
11	9ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	26	保育計画(指導計画)
12	10・11ヶ月児の育ち、体験と遊び、生活の援助	27	実践記録・保育日誌
13	12ヶ月児、1歳の誕生日に！！	28	遊びと絵本の読み聞かせ
14	課題、レポート提出	29	課題レポート提出
15	制作	30	まとめ

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、授業中に行なう演習・発表(30%)、課題レポート(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「見る考える創り出す乳児保育」萌文書林 随時資料配布	「乳児保育の基本」フレーベル館 「なるほど赤ちゃん学」
関連のある授業科目	資格等
子どもの保健Ⅰ・子どもの保健Ⅱ	保育士資格

# 障がい児保育

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

山下順子

## 授業の概要

障がいについての理解を深める。保育する上での留意点を学び、療育機関等について知識を深めるとともに、支援の方法を学ぶ。自分の中にある障がい観と向き合い、人と人がつながりあうことの大切さを学ぶ。

## 到達目標

- ・どんな子どもであれ、自信を持って寄り添い関われる保育者であることを目指す。
- ・分らないことを分らないと質問したり、分ろうと努力する。
- ・障がいについての正しい理解をもち、より良い支援の技術を身に付ける。
- ・障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について学ぶ。

## 事前事後学習

- ・事前学習として、毎授業前に必ず当該箇所のテキストを読んでおくこと。
- ・事後学習として、テキスト及びノート、配布資料に目を通し、復習をおこなうこと。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	①オリエンテーション 障がいとは何かを考える	16	指導計画の作成と記録
2	②オリエンテーション 障がいとは何かを考える	17	・染色体異常
3	障がい児・者の権利について学ぶ	18	・ダウン症
4	障がいの理解と保育支援 ①	19	・てんかん
5	障害者権利条約	20	職員間の協働
6	・肢体不自由児	21	保護者や家族に対する理解と支援
7	・脳性マヒ	22	専門機関との連携
8	・視覚・聴覚障害児	23	小学校などとの連携
9	手話に触れ学ぶ	24	個々の発達を促す遊び
10	発達障害	25	子ども同士の関わりと育ち合い
11	・自閉症	26	保育の現状と課題
12	・高機能自閉症	27	課題についてのグループ討議
13	・アスペルガー症候群	28	職員間の連携
14	・学習障害	29	保育士に求められているもの
15	・注意欠陥多動症候群	30	総括

## 成績評価基準及び方法

学習態度(20%)、小テスト・提出物(20%)、レポート(60%)

テキスト	参考文献・推薦図書
実践に生かす障害児保育 萌文書林	「子どもへのまなざし」、「続子どもへのまなざし」 佐々木正美 福音館書店 「大きな木」 シェル・シルヴァスタイン 篠崎書林
関連のある授業科目	資格等
社会的養護・社会的養護内容	保育士資格



# 社会的養護内容

《1単位(演習)／幼児保育学科1年後期／保育士必修》

担当者

桐原 誠

授業の概要

社会的養護の役割とは、子どもの権利擁護を基本として、子どもたちが安全且つ安心できる生活を保障し、社会的自立を見据えて支援していくものである。本科目は演習科目である為、授業では児童福祉施設における施設養護に焦点をあて、児童の権利擁護、自立支援計画と内容、施設養護における保育士の専門性やソーシャルワーク、施設養護の実践と方法の理解、地域社会・学校との関係作り等、事例を通して理解を深めていく。

到達目標

- ・施設養護や社会的養護の実態を学ぶ
- ・現場で実践できるソーシャルワークの方法と技術の習得
- ・施設で生活する子どもたちの支援について、事例等を通して考える力を養う
- ・児童観や施設養護観を養う

事前事後学習

- ・講義前の予習と講義後の復習がとても大切になるので、教科書をしっかり読みましょう
- ・黒板に板書したものは、必ずノートに書き留めましょう
- ・疑問に感じたことやわからないことがあれば、いつでも質問して下さい

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1		1	オリエンテーション
2		2	社会的養護の背景と捉え方
3		3	施設養護の目的と機能
4		4	子どもの権利擁護と社会的養護
5		5	各種児童福祉施設における養護内容①
6		6	各種児童福祉施設における養護内容②
7		7	里親家庭における養護内容
8		8	個に応じた自立支援計画と内容
9		9	保育士の専門性と子ども観について考える
10		10	ソーシャルワークにおける方法と技術
11		11	施設養護の実践と方法①
12		12	施設養護の実践と方法②
13		13	施設と地域社会・学校との連携
14		14	社会的養護の課題と今後の展望
15		15	総括

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート(20%)、定期試験(50%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「教育と福祉の課題」 晃洋書房 「新版 子ども家庭福祉のフロンティア」 晃洋書房	随時紹介
関連のある授業科目	資格等
児童家庭福祉 社会的養護	保育士資格



# 保育実習指導 I

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／保育士必修》

担当者

笠野恵子・牛島豊広

## 授業の概要

保育実習 I に臨むに当たり、実習に関する事前、事後指導を行う。  
保育実習の意義・目的、内容を理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に学ぶ。さらに、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行う。

## 到達目標

- ・保育実習の意義・目的を理解する。
- ・実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
- ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
- ・実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
- ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

## 事前事後学習

社会の中で働くことや保育士の社会的役割についてそれぞれ考え、学んでおくこと。特に、社会的なマナーを意識して日常生活を過ごし、現場で実習に取り組みさせていただく姿勢を培うようにしてほしい。また、実習の手続き、流れを十分に理解しておいてほしい。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	授業オリエンテーション(授業概要の説明)	16	観察実習と責任実習の違い・実習記録の記入方法
2	実習の意義・目的	17	実習記録の振り返り
3	保育士の職務と1日の流れ(1)(保育所・未満児)	18	先輩からの実習体験談
4	保育士の職務と1日の流れ(2)(保育所・以上児)	19	実習生調書の書き方、本実習の目標の立て方
5	保育士の職務と1日の流れ(3)(児童養護施設、乳児院)	20	本実習の目標の記入方法
6	保育士の職務と1日の流れ(4) (肢体不自由児施設、重症心身障害児施設)	21	保育所の実習記録の記入方法
7	保育士の職務と1日の流れ(5) (知的障害児施設、盲ろうあ児施設)	22	施設の実習記録の記入方法
8	実習の種類・内容	23	省察の書き方と実習記録のまとめ
9	実習の目標と実習の心得	24	教材研究(2)(夏休み課題の発表 I)
10	保育所実習の心得	25	教材研究(3)(夏休み課題の発表 II)
11	施設実習の心得	26	教材研究(4)(夏休み課題の発表 III)
12	実習記録の記入方法の概要と記入例	27	実習オリエンテーション(2)(訪問マナー II)
13	教材研究(1)(夏休み課題の説明)	28	実習直前指導・実習上の守秘義務と職業倫理他
14	実習オリエンテーション(1)(訪問マナー I 他)	29	実習における実践・観察・記録・評価の方法の理解
15	観察実習事前指導	30	実習事後指導(実習反省会用の資料説明)

## 成績評価基準及び方法

学習態度(30%)、レポート・提出物・発表(30%)、試験(40%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「教育・保育実習のデザイン」萌文書林 「保育実習・教育実習のてびき」「保育所保育指針」の他、随時資料を配布	随時紹介する。
関連のある授業科目	資格等
保育実習 I	保育士資格

# 基礎ゼミ

《2単位(演習)／幼児保育学科1年通年／卒業必修》

担当者

幼児保育学科教員

授業の概要

「大学での学び方」「保育用語」「ゼミ別研究」においては、基礎学力を高め、自ら考え表現する方法を学びます。「地域ボランティア」「ボランティア講座」では、地域清掃、点字や手話の体験等を通じ福祉に関する理解を深めます。また「専門職ガイダンス」では、保育・教育分野に限らず、様々な領域の外部講師をお招きし、最新状況についてお話していただきます。以上のような様々な演習を通して社会人・保育者としての資質を磨いていきます。

到達目標

本演習では、大学生・保育者にとって必要な素養を身につける事を目指し、学習・実習・就職活動に対する意識向上をはかります。

事前事後学習

授業教科書、資料などを授業前後にしっかり読み、学習に臨みましょう。またゼミにおける課題について自分なりに情報収集・整理も求められます。

## 授業計画(項目・内容)

回	前期	回	後期
1	オリエンテーション・大学での学び①(マナー・生活)	16	観察実習オリエンテーション
2	大学での学び②(文章・思考編)	17	観察実習
3	日本語文章スキルアップ	18	観察実習まとめ(お礼状作成等)
4	保育用語 I	19	保育用語VI
5	専門職ガイダンス①	20	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑦
6	ゼミ別研究・学びのスキルアップ①	21	地域ボランティア①(学内外清掃活動等)
7	ゼミ別研究・学びのスキルアップ②	22	保育用語VII
8	保育用語 II	23	ボランティア講座 I
9	ゼミ別研究・学びのスキルアップ④	24	ボランティア講座 II
10	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑤	25	保育用語VIII
11	保育用語IV	26	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑧
12	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑥	27	ゼミ別研究・学びのスキルアップ⑨
13	専門職ガイダンス②	28	保育用語IX～学習まとめ
14	保育用語 V	29	専門職ガイダンス④
15	学習のまとめ	30	保育用語 X～学習のまとめ

## 成績評価基準及び方法

レポート(60%)、保育専門用語テスト(10%)、課題等提出物(10%)、学習態度(20%)

テキスト	参考文献・推薦図書
「これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本的用語」長島和代編 わかば社 その他、適宜資料を配布する	「大学生の日本語トレーニング」世界思想社 その他、適宜紹介する。
関連のある授業科目	資格等
キャリアスタディ、卒業研究等	